

R. S. C. D. S.

# 東京ブランチャター

No. 36

1997 東京ブランチャ主催

ティーチャー&プレリム エグザミネーション関連事業

エクザム実行委員長 池間 博之

7月26、27の両日、標記試験が日本体育大学・ハース専門学校のダンススタジオで実施され、ティーチャー9名・プレリム10名の受験者が挑戦しました。

試験に先立って、スコットランドからレスリー・マーチン女史をトレーニング指導者として招き、7月10～22日まで日野ラサール研修所で合宿を行ないました。朝9時から夜10時まで、それは徹底して個人指導も行なわれました。実施委員の松橋・佐藤・島山・五十嵐・大内さん、生活ボランティアの皆様の献身的協力で、無事終了いたしました。

この試験は、前役員の岩崎さん達の発案で2年前にスタートし、現役員が引き継ぎました。昨年暮れに予期せざる事態が発生し、対応に苦慮いたしましたが、乗り切ることができました。RSCD協会のエグザム委員会が計画した、太平洋アジア地区試験日程調は、早くからHQ、オーストラリアの担当者と始まりました。トレーニング指導者・会場確保・そして受験者への働きかけ…遅ればせながら実行委員会が5月17日発足して、受験者（ティーチャー）に対して2回の研修会がもたれました。

検定試験は台風の本土上陸と重なり心配されましたが杞憂に終わり、試験当日は数多くのボランティアダンサーの協力をいただきました。その数と技術の高さに対して、試験官からおほめの言葉をいただきました。RSCD協会のサマースクールは、伝統的にティーチャーと参加者の見事なまでのボランティア精神で運営されていますが、ここ東京ブランチャでも生まれつつあることは喜ばしい限りです。

私は試験に立ち合って、受験者全員がベストを尽くしたのを目の当たりにして、全員合格するものと確信しています。新しく誕生する指導者が、ボランティア精神を発揮して、会員の皆様に良いサービスを提供されることを、切望いたします。

東京ブランチャ・指導者検定トレーニングコース 1997

—7月12～23日 日野市ラサール研修所—

トレーニングリーダー レポート レスリー・マーチン

スコティッシュ・カントリーダンスは、世界各地で多くの人々に愛好されているレクリエーション活動です。そして日本人ほど、このダンスを熱心に踊っている国はありません。

1996年7月、東京ランチからの手紙”…1997年7月、検定試験の前にトレーニングをお願いしたい…”との依頼に、ためらうことなく承諾の意志を固めました。それは、1989年のトレーニングコースの思い出が大変すばらしく、あの熱心さ・献身的・協力的シーンが残っていたからです。

1997年7月、アバディン発 雨の成田空港に佐藤・五十嵐さんの暖かい歓迎を受けました。夜はトレーニングコース実行委員と打ち合わせと会食、そしてグッスリ眠りました。翌日は松橋さんの案内で、国立劇場歌舞伎教室で初体験 一英語解説のイヤホンでレクチャーデモンストレーションは良く理解、日本の子供のお行儀の良さー ベリーハッピーな1日。

さあ、7月12日 仕事！日野ラサールへ。開会のセレモニー、21日閉会のセレモニーは、フォーマルで行事終了の方法としてうまいー

フルサーティフィケート受験者は6日間、毎日夜遅くまでハードワーク・全員がベストを尽くし、私の全てを学ぼうとする態度は、私にとってこの上ない喜びです。言語の障害があっても、私の考え方・実技は良く理解され、表現できました。通訳の方、ご苦労様。

東京ランチが、2人の選任ピアニストを持っていることは、賞讃に値します。

小海さん ー 非常に才能豊かなレディ

村上さん ー 踊り手と協力、理解が早い

私の指導において、大きな力となりました。

宿泊施設はグッド。キッチンと支援態勢は1stクラス。受験生と私は、ボランティアの皆様に変え良く面倒を見ていただきました。特に池間さんは、辛く苦しい中で、常に私達を元気づけてくれました。無事終了したことを東京ランチ関係者全員と、喜びたいと存じます。

最終日、豪華なお別れ会では、皆さんとお別れする最後は悲しい時間でした。

このたびの合宿研修で、私が受けた東京ランチの見事な組織運営と、心のこもったホスピタリティーに対して、充分なお礼の言葉は見当たりません。

願わくは、好成績をえて、日本各地でハッピーダンシングが広まりますよう祈ります。

くもりのち 晴れ 一時雨…?

小海 弘子

内容についての連絡が来たのは4日前…。余りの遅さに気分は”雷の光る曇り空”。ところが、始まったクラスは”カウントが踊ってる！” 全身でcandidatesに接するLesleyさんの手、声に引き込まれムリだ…と思える指示にも”やってみるか…” そして1人1人にうまく音を出せるだろうか…という不安も、一生懸命な様子にいつか消え、”ガンバッテ、合わせるから…” でも、そんなヤル気が空回りしたことも…tempoがとれない…。翌朝、腫れ上がった目に「What happened?」 片言の説明に、ナーンダというように笑い出すと、「Hiroko Don't worry!」 …気にするわよと思いながらも、早口の英語になぜか気持ちは落ち着き、後は順調に？進んで、明日はリハーサルという日。No. 9までdance名を書き終えるとニコッ。ハイ、と渡され、”コレ…弾く…の…?” すかさず「あなたは出来ると思っているのよ」と順子さん。そう言われたら、思われたら弾く

しかない。意地とヤル気をしっかり引っ張り出された感じのこの数日間。たくさんの方たちの優しさと、暖かさを感じながら、パートナーとしてクラスにいられたことを、とても幸せに思い、気分は”高く青い空”に変わっていました。そして迎えたexamination。緊張しながらも、その場を楽しんでいる自分がいました。終わってホッとする気持ちと、少し淋しい気持ちが交錯する中、早くも入り始めた嬉しい知らせ。 ” pianistをパートナーに、pianoの音に負けない声で、クラスを進めていく…” そんなteacherを目指して下さることを願って。そして、そして、今回手伝って下さったNew pianistに” ヤッタネ！ これからもよろしく！”

## 生活ボランティアの初体験

飯田 澄子

このたび、レスリー・マーチンさんのご指導によるトレーニングコースが、日野市のラサール研修所で行なわれることになり、7月18～21日に生活ボランティアとして初めて参加させていただく機会を与えていただき、深く感謝いたしております。

ロイヤル スコティッシュ カントリーダンス に大変魅せられ、ほんのわずかながら手ほどきを受けた私にとって、東京ランチの9名の先輩がティーチャーズ サーティフィケート エグザミネーションに挑戦される準備のためにキャンディデートとして、熱心にトレーニングコースで勉強されているご様子を目の当たりに拝見し、身近に感じ大変な感動を覚えました。

とくに、1) 体力 2) 秩序ある行動 3) 根性 4) 明朗 5) 指導力などを基盤とした素晴らしい資質を、それぞれのキャンディデートの皆様がすでに身に付けられ、自身自身の柱にしておられることを強く感じました。

R. S. C. D. S. によりティーチャーズ サーティフィケート エグザミネーションが日本で行なわれるのは、今回が初めての企画であることを教えていただきました。すでに英国でこの資格試験に合格し、東京ランチを創立されましたルーツの先輩の諸先生方の並々ならぬご協力により、今回の企画が現実のものとなったことを知りました。しかもそれよりも実り多いものにするためには、試験の前に英国よりわざわざ講師を招いてトレーニングコース プログラムを用意されたというご配慮に頭が下がる思いがしました。恵まれた素晴らしい環境が用意され、キャンディデートの方々はこれに答えるかのように、早朝より広い食堂で、あたかも基石が散乱しているかのごとくテーブルの前に座り、黙って真剣に勉強されておられる様子を垣間みさせていただくこともございました。

私は、生活ボランティアとして食事の用意などをしながら、少しでも皆様の勉強の手助けになればと、心がけたつもりしております。願はくば、来るべきエグザミネーションに全員が合格され、サーティフィケートを獲得されることを祈っております。そうして、こうした有資格者が増えることにより、東京ランチが益々充実し、発展していくことを願いたいと思います。

私は、指導的役割を演ずる素晴らしい先輩達と多数の会員によって構成されている伝統のある東京ランチのメンバーの一員として、ロイヤル スコティッシュ カントリーダンスを単なる趣味としてでなく、人間形成と老化防止に役立つような生涯教育の一環

として、前向きに引き続き取り組んで、理解促進していきたいと思っております。

### ボランティア・セットに参加して

渡辺 清一

あー良かった、良かった。無事7月26日(プレム)、7月27日(フル)のテストが終わった。受験するメンバー全員が顔見知りで、ボランティア・セットに参加した自分。前回8年前(プレム)を神田で行なわれたことを思い出す。初めてなので何がなんだか分からないうちに終わったが、今回は経験を生かし、初参加したボランティア・セットの人に声を掛け、気分をやわらげたり、皆で無事終わるよう努力したつもりです。また、受験された方にはいろいろなタイプがあり、本番に強い人・弱い人がいて、ボランティア・セットの人に伝わって来ました。相方、立場は違いましたが、共に協力しあったことは、大変意義の多いボランティア・セットだと思っています。今後、また東京ランチで行なうことがあれば、足の動く限り手伝いをと感じています。しかし、今回の階段登り降りには、閉口しました。

### トレーニングは楽しかったのですが

小幡 正明

トレーニングの最後に Miss Lesley Martin が「合格したらおもいっきり喜ぼう。もし失敗しても、それはそれ、あまり気にしないこと。遊びなんだから」というしごくもったもな話しをしてくれましたので、試験は楽な気持ちで受けることができました。…と言えないのがつらいところで、試験当日は順番待ちの間ずっと沈んだ気分でした。でも始まってからはもうじたばたせずにトレーニングの成果をぶつけたのです。

トレーニングの前に出された宿題で、まずどうしたら良いんだろうと考えた結果、分からないからトレーニングを受けるんだと納得して、いつものパターンのそれなりの準備で臨みました。宿題をきちんとやってきた人達にも助けられ、実技試験にいたる延べ6日間のトレーニングでみっちり鍛えられた訳ですが、Miss Lesley Martin の自信に満ちた的確な指導は、忘れかけていた8年前を思い出させました。厳しいけれど楽しい…あとから思えばですが、トレーニングだけならまた受けても良いかな、なんて気もします。懲りない人なんではないでしょうか。

今回の試験では多くの実行委員・ボランティアの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。ことにピアニストの小海さんは、宿題の曲・模擬試験の曲・試験の課題曲と Unseen Dance ばかりを人数分弾くことになり、ほとんど受験状態だったのではないかと、ひそかにお察し申し上げます。

これからは、これまでに受けたご協力への仕返し…ではなく、お返しをすることになります。そのときにはまたよろしくお願い致します。

## コンフィデントを忘れずに

林 浩子

トレーニングティーチャーにスコットランドからミス・レスリー・マーチンを、ピアニストに小海弘子さんをお願いして、楽しくも厳しい合宿トレーニングが始まりました。朝から晩まで食事と睡眠以外はダンシングの練習、筆記試験に備えての勉強と講義、ティーチングの練習といった具合に、踊り三昧の生活でした。私は、トレーニングに入る前日まで仕事に追われていたので、合宿に入った途端、楽しい別世界に迷い込んだような解放感を覚え、レスリーの特訓さえも、とても楽しく感じられました。その、楽しく感じられた理由の一つとして、ダンス歴も、特に教えることの経験の浅い私が、レスリーの指導によって、少しずつ進歩していく感触が得られたことを上げることが出来ます。何事であれ、進歩していくことは、楽しい経験です。私は、プレリミナリー・テストをセント・アンドルーズで、ティーチャーズ・サーティフィケートを日本で受けることになりました。二つの試験の目的が違うので、いちがいに比較することは出来ませんが、一つだけ言えることは、どちらの試験もしっかりとしたトレーニングこそが主目的であり、試験はそれに付随してくるもので、どれだけ体得したかのチェックにすぎないと思えることです。レスリーは分かりやすい英語で、非常にゆっくり話してくれるし、また通訳付きで隅々まで理解できたことは、日本で受けた大きなメリットだと思います。セント・アンドルーズでは予想以上に早い英語で、大事なことを聞き逃したり、書き取れなかったことがたくさんあったことでしょう。

試験はやはりティーチングが一番心配でした。ソサイティの指導方法にのっとったやり方でティーチングプランを作り、それに沿って指導することが求められるのですが、始めのうちこの指導方法を身に付けるのが大変でした。私がティーチングの際によく注意された言葉に”コンフィデント”（つまり、自信を持って）というのがありました。最後のお別れ会の会場へ行く電車の中でも、”ヒロコ・コンフィデントということのを忘れないで”と、アドバイスを受けました。その言葉を忘れないようにと思います。

合格通知が届き、嬉しいけれど責任の重さもひしひし。ここをスタートラインとしてしっかり勉強し、努力したいと考えています。

スタッフ、実行委員、ボランティアの方々には、言い尽くせぬ程の感謝の気持ちでいっぱいです。

## 涙がポロリ・ポロリ…

綾部 まゆみ

「楽しんでトレーニングを受けなさい」と言われていたのですが、とても不安な気持ちでトレーニングに生きました。

この不安は突然やってきました。始まってすぐのこと、片を叩かれ「この曲のブリーフィングを…」。ドキッ、これが次から次と続くのかと思うと…。

そして、ティーチングの練習の時のことです。いよいよ次は私の番なり、ドキドキしな

がら始まりました。ノートに記録した通りに進む予定だったのです。が、少し進むと注意を受けました。全体に教えるのだから立つ場所はここ、皆に聞こえるような大きな声、またピアノにも負けないような大きな声も必要、怒鳴るような大声を出していたように思えました。そんなこんなでやっと終わったとき、今まで張りつめていた気持ちが「ほっ」としたその途端、涙がポロリ、ポロリ…。ちょうどティータイムになりました。が、なかなか止まらなかったことを覚えています。

3泊4日のトレーニングは、勉強・勉強の毎日でした。一日中踊っていられるのだから楽しいはずなのですが、私には覚えること山程、「もうこんなに時間が過ぎて」と言う程早く時間が過ぎたような気がしました。

終わってみると、やはり楽しむ余裕はなかったように思います。今回のトレーニングでは、難しいフォーメーションも、難しさを感じさせず教えてしまう方法も学び、そして、改めて「あーそうなんだ」と思うこともいっぱいあり、ティーチャー・レスリー・マーチンのトレーニングを、もっとたくさん受けたかった、そう感じました。

昼間はトレーニングで緊張、夜は皆で寝る時間を惜しんでの勉強、その中でも「スカート寝押し事件」など、笑えることもあり、楽しい仲間が出来たことをうれしく思っております。

## プレリミナリテストを受験して

境 雅子

今回の試験に当たり、惜しまない協力をしていただきました。ティーチャー、ボランティア、実行委員の皆様、本当にありがとうございました。心細く挫けそうになる気持ちを、ボランティアの皆さんに支えてもらっているという実感でいっぱいになっていました。

試験を受けてみようかなと言うぐらいの気持ちが、トレーニングに入り”目が点”状態になるまでにはそんなに時間がかかりませんでした。楽しいだけで20年踊ってきて、知識も何も私には身に付いていないということを肌で実感した次第です。でも、一つ一つ、手取り足取り（本当にこの状態！）マニュアルを訳すところから指導していただき、今までただ踊っていたことがきちんと分解され、組み立てられているということが分かり、ある種の感動を覚えました。そして、私の練習不足ということも合宿が始まったとき、よく分かりました。

合宿中は「悲惨、最悪」の一言に尽きました。痛めた足が腫れて、ダウン。一番若いのにという言葉が、胸に刺さりました。2カ月間練習し、注意され、気をつけていたことなどアッという間に飛び去り、頭は真っ白状態で今まで踏んだこともないパディバスクを踏む始末。でも、勉強をしてなかったのだから、落ち込む必要もないと思うと（これって居直りというのかしら）何となく元気が出てきて、試験までの10日間足と心のリハビリに専念することができました。

試験当日は、今まで教えてもらったこと、注意されたことな自分の中で整理しながら、でもいっぱい緊張して、伝えたいことの半分も伝え切れず、緊張だけを残してきた感じがします。試験の批評の時に、モルブさんが「これから皆に指導していく気があるのか」と聞かれたとき、「YES」と答えたら、「じゃあ、あなたのステップの悪いところを教え

てあげるから」と言われて、指導してもらっているとき、とっても幸せな気持ちになりました。本当に全ての人に支えてもらっているという思いを実感し、合否はともかく今回のトレーニングは私の踊りに対しての気持ちを新たにしたいと思います。

去る7月19～27日に行なわれた The Teacher's Certificate Examinatin (公認指導者試験) に次の方々合格しました。(東京ブランチ所属会員のみ)

相沢 栄咲、荒井 千文、稲垣 俊、大野 悦子、小幡 正明、掛川 純子  
近藤 幸子、田村 妙子、中田 多鶴子、林 浩子、毛利 利子、  
渡辺 美千代、(以上 12名、アイウエオ順)

また、The Preliminary Test (予備試験) には11名の方が合格致しました。  
今後のブランチ活動において、活躍を大いに期待したいと思います。

### 《お知らせ》

★レター No. 35 で紹介・斡旋いたしました下記のBooklet (資料) が、発売元の値段が改定 (値上げ) されましたので次の通り変更いたします。

品 名	旧価格	新価格
・GLASGOW ASSEMBLY and other Scottish Coyntry Dances	400	430
・FAREWELL, MY FANCY and more Scottish Coyntry Dances	550	580
・The Canadian Book Of Scottish Coyntry Dances	500	550

また、"Twenty-Two S. C. D. 's" は、昨年 著者が亡くなり著作権が他に移り、新著作権所有者がいかなる形で出版を続けるか不明のため、現在入手できません。再出版が始まりましたら、改めてご紹介致します。

★10月のブランチ・クラスでは、Leaflet 32 の曲を行なう予定です。  
(残念ながら、この音楽は出ていません。)

### 《その他》

ブランチと合同で、ブランチ・クラスをやってみませんか。

原則 (条件) として ①ブランチのサービスエリア内のグループ

②ブランチ会員がいる

③4～5セットくらい作れる広さの会場が確保できる

④土曜日か日曜日に実施 など

多数の申し出をお待ちしています。(問い合わせはセクレタリまで)

## RSCDS 指導者検定について

池間 博之

標題について会員の皆様から色々質問や意見が寄せられ、誤解も少なくないようなので、以下要点をまとめてみました。

### プレリウム・テスト（準備・予備試験）

1. 20才以上で、4年以上のSCDクラスの経験があり、高い実技水準に達していること。
2. ティーチャー（公認指導者）の推薦書がもらえること。
3. 基本ステップ、フォーメーションの正確な知識があり、規定曲を知悉する。

試験は実技・指導力（20分前にステップとフォーメーションが与えられ、20分間で指導する）・理論（筆記、1時間30分）の3点をテストされる。

### フルサーティフィケート・テスト（本試験）

1. 22才以上で、予備試験合格後2年以上指導経験が有ること。
2. ティーチャー（公認指導者）の推薦書がもらえること。
3. 予備試験より高度な実技、指導力、理論、自信、マナー、人柄が必要。

試験は実技・指導力（事前に知らされた課題曲の指導案作成、30分間で指導、口頭での質疑応答）・理論（自分自身の考え方が問われる）

原則としては、検定希望者はティーチャーが指導するクラスに参加し、話し合い、検定への準備トレーニングに入り、その結果としての推薦状を受けて受験申込書を提出いたします。  
(注)

近隣にティーチャーがいない場合はランチが相談に乗ることになります。将来、受験希望者を対象にトレーニング・コースを開設することが予想されます。

(注) 正確には受験申込書ではなく「トレーニング参加申込書」です。

このことでも分かる通り「トレーニング」（ティーチャーとしてRSCDSが定めた指導方法を身に付けること）が目的で、試験はその結果を見るために行われます。

RSCDS 東京ランチバー 1997. 8. 30. 新  
RSCDS 東京ランチ  
セクレタリ 稲垣 俊  
〒370 高崎市上中居町290  
☎0273-27-3886